

2021年2月10日

東北大学大学院医学系研究科

新型コロナウイルス感染症流行下における看護職の精神健康ケアの必要性増  
看護職の約4割が新型コロナによる離職意向を示す

【発表のポイント】

- 昨今の新型コロナウイルス感染症流行下で、病院勤務の看護職の精神健康の状態が悪化していることが明らかとなった。
- 新型コロナウイルス感染症の流行は、その程度の大小にかかわらず看護職の精神健康にネガティブな影響をもたらしている。
- 約42%の看護職が、新型コロナウイルス感染症の拡大の影響で、「看護職の仕事を辞めたいと思った、自信がなくなった」と回答しており、新型コロナウイルス感染症の拡大の影響が、看護職の離職を促す可能性が懸念される。

【研究概要】

昨今の新型コロナウイルス感染症流行下では、医療従事者の精神健康（メンタルヘルス）の維持が重要な問題となっています。東北大学大学院医学系研究科の看護管理学分野朝倉京子教授らのグループは、新型コロナウイルス感染症流行の拡大時における看護職の精神健康の変化と離職意向の状態を明らかにしました。本研究は、体系的な調査手法を用いて、日本の病院勤務の看護職の精神健康と離職意向のレベルを初めて明らかにした重要な報告です。本研究の結果は、新型コロナウイルス感染症流行下における看護職の精神健康ケアの必要性に警鐘を鳴らすものであり、新型コロナウイルス感染症の流行拡大時の医療体制の維持に関する政策決定や勤務病院等での対策について、大きく寄与するものと期待されます。

## 【研究内容】

昨今の新型コロナウイルス感染症流行下では、医療体制の逼迫とともに、医療従事者の精神健康(メンタルヘルス)の維持が重要な問題となっています。今回、東北大学大学院医学系研究科看護管理学分野の朝倉京子(あさくら きょうこ)教授らのグループは、看護職の精神健康の変化と離職意向の状態を調査しました。

研究グループは、はじめに、2020年12月上旬の感染者数のデータをもとに、人口10万人あたりの感染者数が相対的に多い4都道府県、感染者数が相対的に少ない4都道府県を選定し、該当する都道府県から無作為に病院を抽出しました。つぎに、抽出された病院に勤務する看護職10,000名を調査対象とし、2021年1月、オンライン調査を実施しました。精神健康の測定には心理尺度(K6)<sup>注1</sup>を用い、離職意向の測定には自作の2つの質問項目を用いました。

調査の結果、2,273名から回答があり、回収率は22.7%でした(2021年1月27日時点)。対象となった看護職の精神健康得点の平均値は $8.52 \pm 5.88$ 点となり、平時に看護職を対象として実施した調査(2014年1月、看護職5,557名を対象とし、感染症の感染拡大や災害のない時期に行った)の精神健康得点の平均値 $5.41 \pm 5.88$ 点を大きく上回っていました。人口当たりの感染者数が相対的に多い地域で勤務する看護職の精神健康の平均値は $8.30 \pm 5.95$ 、人口当たりの感染者数が相対的に少ない地域で勤務する看護職の精神健康の平均値は $8.78 \pm 5.79$ であり、両者に統計的な有意差はありませんでした。精神健康(K6)の得点が10点を超える看護職は、2014年1月の平時の調査では対象者全体の20.8%でしたが、2021年1月の調査では39.8%でした。

「新型コロナウイルス感染症の拡大の影響で、看護職の仕事を辞めたいと思ったことがありますか?」の質問に対し、「たびたびあった」との回答が355名(15.6%)、「ときどきあった」との回答が620名(27.3%)で、合計975名(42.9%)の看護職が新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響で、看護職の仕事を辞めたいと思う経験をしてきたことが明らかになりました。さらに、「新型コロナウイルス感染症の拡大の影響で、看護職の仕事を続ける自信がなくなりましたか?」の質問に対し、「たびたびあった」との回答が280名(12.3%)、「ときどきあった」との回答が681名(30.0%)であり、合計961名(42.3%)の看護職が新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、看護職の仕事を続ける自信を失う経験をしていました。

**結論:**本研究の結果は、新型コロナウイルス感染症流行下における看護職の精神健康ケアの必要性に警鐘を鳴らすものです。新型コロナウイルス感染症の流行拡大時の医療体制の維持に関する政策決定や勤務病院等での対策について、重要な寄与を与えるものと期待されます。

## 【用語説明】

注1. 心理尺度(K6):米国のKesslerらによって開発された、うつ病・不安障害などの精神疾患をスクリーニングすることを目的とした指標。K6の10点以上は、気分障害・不安障害の一次スクリーニングをする際の目安として推奨されている。

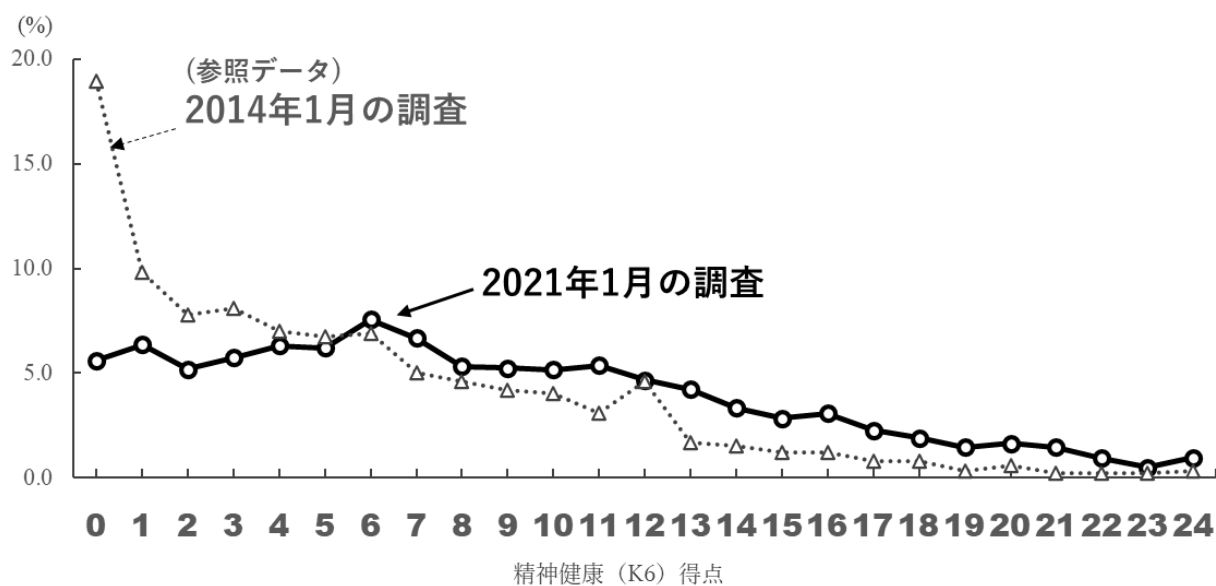


図 1. 看護職の精神健康の分布

表 1. 精神健康の平均値の比較

		平均±標準偏差
<b>2021年1月の調査</b>	全対象者 (2,273名)	8.52 ± 5.88
	感染者が相対的に多い地域 (1,255名)	8.30 ± 5.95
	感染者が相対的に少ない地域 (1,018名)	8.78 ± 5.79
<b>2014年1月の調査</b>		5.41 ± 5.05

表 2. 精神健康の測定でカットオフ値を超える対象者の割合

	10点以上の割合
<b>2021年1月の調査 (全対象者)</b>	39.8%
<b>2014年1月の調査</b>	20.8%

**【お問い合わせ先】**

**(研究に関すること)**

東北大学大学院医学系研究科看護管理学分野

教授 朝倉京子(あさくら きょうこ)

電話番号: 022-717-7932, 8674

Eメール: [asakura@med.tohoku.ac.jp](mailto:asakura@med.tohoku.ac.jp)

**(取材に関すること)**

東北大学大学院医学系研究科・医学部広報室

電話番号: 022-717-7891

FAX 番号: 022-717-8187

Eメール: [pr-office@med.tohoku.ac.jp](mailto:pr-office@med.tohoku.ac.jp)